西村証券 企業調査速報

2025/03/26

[金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号：加入協会…日本証券業協会]

堀場製作所（コード 6856）

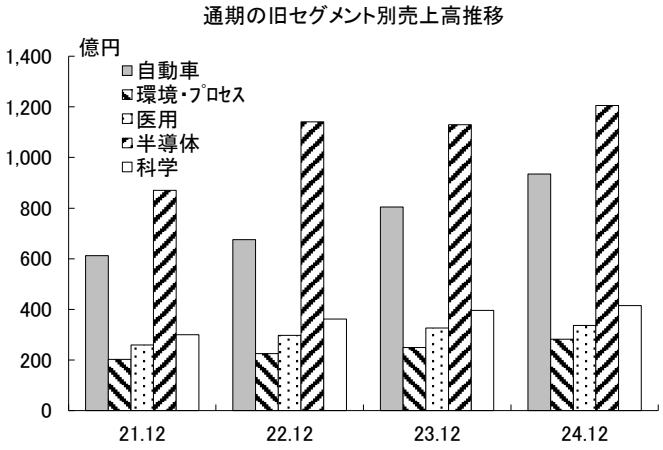
◆通期業績推移(連結)（25.12 予は会社側発表値）

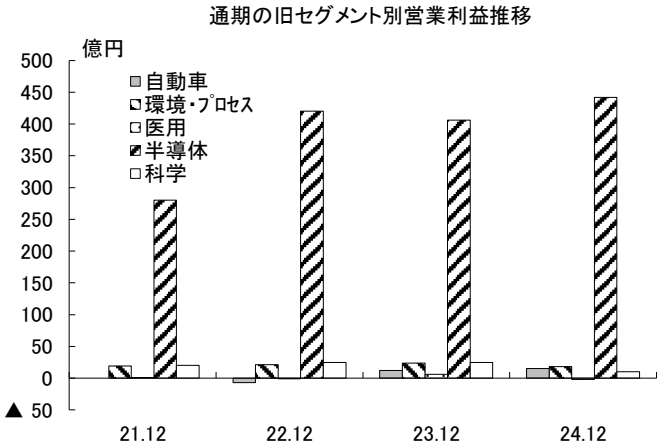
決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.12	290,558	47,296	953.7	290.0	16,652	▲7,315	▲20,963	130,550
24.12	317,369	48,340	799.4	予270.0	40,335	▲17,562	▲15,933	143,963
25.12予	340,000	54,000	905.8	290.0	—	—	—	—

◆各決算期の第 2 四半期業績推移(連結)（25.12 予は会社側発表値）

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.12	131,105	17,838	449.9	80.0	3,635	▲1,277	▲18,565	127,009
24.12	142,720	18,615	312.4	80.0	9,955	▲4,390	▲9,730	134,237
25.12予	155,000	23,000	369.5	80.0	—	—	—	—

（CF＝ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円）





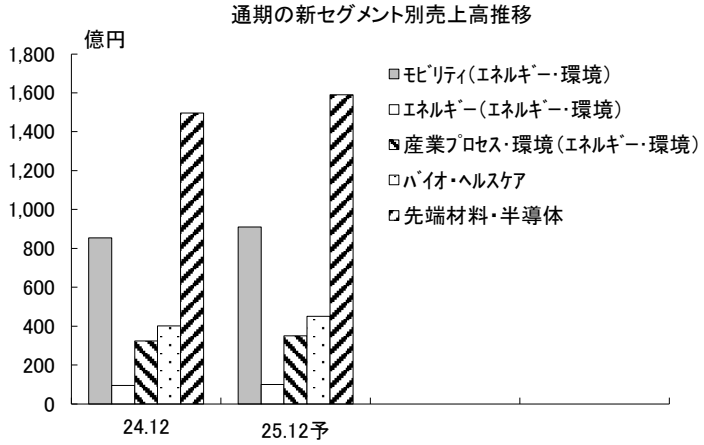
24 年 12 月期の業績概況…24 年 12 月期の業績は、円安の進行に伴い欧米での売上高が円換算で増加したことや、自動車、半導体の各セグメントを中心に販売が増加したことなどにより、前年に比べて売上高が 9%、営業利益が 2%それぞれ増加した。

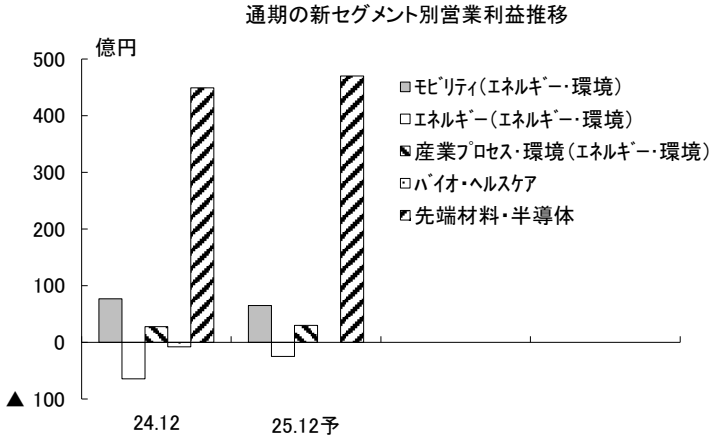
当期の業績は、売上高 3,173 億 6,900 万円（23 年 12 月期比 9%増）、営業利益 483 億 4,000 万円（同 2%増）、経常利益 501 億 7,000 万円（同 4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）335 億 9,100 万円（同 17%減）となった。前年に特別利益に計上された関係会社株式売却益 66 億 1,500 万円が当期には無かったことに加え、特別損失で減損損失 13 億 500 万円（前年は無し）が計上されたことなどから、当期純利益は減益となった。

セグメント別の売上高は、自動車 934 億 9,800 万円（23 年 12 月期比 16%増）、環境・プロセス 281 億 9,400 万円（同 13%増）、医用 337 億 600 万円（同 3%増）、半導体 1,204 億 6,600 万円（同 7%増）、科学 415 億 300 万円（同 5%増）となった。また、セグメント別の営業利益は、自動車 14 億 9,300 万円（同 24%増）、環境・プロセス 18 億 3,500 万円（同 24%減）、医用 1 億 5,000 万円の損失（23 年 12 月期は 6 億 3,800 万円の黒字）、半導体 441 億 7,800 万円（23 年 12 月期比 9%増）、科学 9 億 8,200 万円（同 60%減）となった。

自動車については、水素事業の立ち上げに伴う投資継続の一方、日本、米州でエンジン排ガス測定装置や自動車計測機器事業の販売が増加し、増収増益となった。環境・プロセスについては、日本・アジアでプロセスガス計測機器や水質計測装置の販売が好調で増収となったが、前年に買収した産業プロセス計測事業の立ち上げに伴う投資負担などによって減益に。医用については、

円安の進行により増収となったが、日本での血球計数装置の販売減の影響で赤字となった。半導体については、生成 AI 関連需要拡大などを背景に、アジアにおいて半導体製造装置メーカー向けの販売が増加したことなどから、増収増益になった。科学については、欧州で最先端材料分析用途のラマン分光分析装置の販売が増加した一方、製品売上構成の変化などにより、増収減益となった。





キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況について、当期末における現金及び現金同等物の残高は 1,439 億 6,300 万円（23 年 12 月期末比 10%増）となった。営業活動 CF は、税金等調整前当期純利益 488 億 3,200 万円（23 年 12 月期比 9%減）、棚卸資産の減少額 57 億 9,400 万円(23 年 12 月期は増加額 200 億 9,100 万円)、法人税等の支払額 117 億 5,500 万円（23 年 12 月期比 35%減）などにより、403 億 3,500 万円の収入（同 142%増）となった。投資活動 CF は、有形固定資産の取得による支出 181 億 5,200 万円（同 105%増）などにより、175 億 6,200 万円の支出（同 140%増）に。財務活動 CF は、短期借入金の純増額 23 億 6,500 万円（23 年 12 月期は 79 億 800 万円の純減)、自己株式の取得による支出 50 億 1,700 万円（同 100 万円未満)、配当金の支払額 122 億 2,800 万円（23 年 12 月期比 11%増）などにより、159 億 3,300 万円の支出（同 24%減）となった。

25 年 12 月期の業績見通し…25 年 12 月期の業績は、売上高 3,400 億円（前期比 7%増)、営業利益 540 億円（同 12%増)、経常利益 540 億円（同 8%増)、当期純利益 380 億円（同 13%増）の見通しで、1 株当たりの年間配当金は 290 円の予定。

当期よりセグメント分けを変更。売上高予想は、エネルギー・環境が 1,360 億円（同 7%増)、バイオ・ヘルスケアが 450 億円（同 12%増)、先端材料・半導体が 1,590 億円（同 6%増）で、エネルギー・環境のフィールド別では、モビリティ 910 億円（同 7%増)、エネルギー100 億円（同 5%増)、産業プロセス・環境 350 億円（同 8%増）に。また、営業利益予想は、エネルギー・環境 70 億円（同 67%増)、バイオ・ヘルスケア収支均衡（前期は 8 億 9,000 万円の赤字)、先端材料・半導体 470 億円（前期比 5%増）で、エネルギー・環境のフィールド別では、モビリティ 65 億円（同 16%減)、エネルギー25 億円の赤字（前期は 64 億円の赤字)、産業プロセス・環境 30 億円（前期比 7%増）となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。